

2021（令和3）年度
推薦入試
卒業生子女・弟妹入試
〔外国語学部〕
小論文問題

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解答要領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

次の文章を読み、設問に答えなさい。

週末、長女を連れてふらりと入った南アフリカ・ヨハネスブルクの玩具店「シバフレ・コレクション」。そこに並んでいたのは、肌の色が黒く、アフロヘアの女の子の人形だった。

「ママ、私もサラサラの髪になりたい」。オーナーのピラカジ・オフォスさんは娘にこう言われてハツとした。娘が普段遊んでいる人形は鼻が高く、肩まで伸びたストレートヘア。知らず知らずのうちに「かわいい」と思う基準に影響を与えていたようだ。近所の玩具店には肌を黒く塗った人形こそあったが、アフリカの黒人少女とは似ても似つかない容姿だったという。

「アフリカにはアフリカの美しさがある」。そんな思いを形にしたオフォスさんの店の人形は縮れ毛で、鼻がちよつと丸い。街角で見かける少女そっくりだ。人形が着ている服も色鮮やかなアフリカンプリント。中にはインド系や、肌や髪が白い「アルビノ」（白皮症）の少女の人形もあった。

多様性に富んだ虹の国らしい。誕生の経緯を聞くと、人形がよりかわいらしく感じられた。

（小泉大士 2019年8月17日 毎日新聞 東京夕刊「憂楽帳…アフロヘアの人形」）

設問 「多様性に富んだ虹の国」に暮らすピラカジ・オフォスさんが「ハツとした」理由を説明した上で、あなたが経験した同様の事例を示し、それについて考えを述べなさい。（601字以上800字以内）